

当社社長の「2003年 新年挨拶」について

本1月6日、当社社長の高萩光紀は、2003年を迎えるにあたり、社員に対して新年の挨拶を行いました。
要旨は次のとおりです。

1. 当社は、本年4月に石油事業会社と電子材料事業会社に分割され、それぞれが新日鉱グループの中核事業会社として独自の道を歩むことになる。1992年12月に日本鉱業と共同石油の合併により当社が誕生してから、丸10年が経過した節目に、新たな歴史の第一歩を踏み出すわけである。両社にとって、この記念すべき年を、将来にわたる長い歴史を築き上げていくための基礎固めの年にしたい。

当社を取り巻く環境は、依然として厳しい状況が続くと考えざるを得ず、これに耐えうる経営基盤を早期に作り上げなければならない。中期経営計画の達成に向けて次のことを願う。

1. 石油事業については、精製費1,500円/KL以下の実現をはじめとする諸コストの徹底した削減と、販売部門の競争力強化に取り組み、必ず所期の成果を収めること。
2. 電子材料事業については、事業規模適正化の早期実現と、製品価格の低下に対応できるコスト競争力を確保すること。



2. 新規事業への取組みについては、燃料電池やGTLなどの新エネルギーの領域に加え、環境関係の領域において事業探索を推進する。併せて、三陸沖ガス田の開発をはじめ石油上流部門も強化していく。
4. 今年の干支は「癸未(みずのと・ひつじ)」であるが、これまでの未年に起きた石油に関係深い出来事を紐解くと、1967年には第3次中東戦争、1979年には第2次オイルショック、1991年には湾岸戦争が起きており、未年は大乱を予感させる年とも言え、現に今年もイラク情勢が緊迫化している。石油業界に身をおく当社グループは、このような荒波を乗り越え、スピードと実行力を武器として、一層経営基盤を強化していかなければならない。

以上